

# 国産材型枠用合板の需要拡大に向けて

## 検討委員会が中間取りまとめ 技術開発課題や政策の方向性を提言

我が国の木材需要の1割強を占める合板のうち、構造用合板については、ロシアカラマツの安定供給に対する不安や国内の針葉樹資源の充実から、国産材への原料転換が進んでいます。しかしながら、建設工事等に使用されるコンクリート型枠用合板における、スギ等の国産材のシェアは極めて小さく、この分野におけるスギ等の利用を推進していくことが国産材の需要拡大の上で重要な課題となっています。このため、林野庁では、本年六月から三回にわたって型枠用合板に係る技術的な問題等を検討するための委員会を開催し、このほど、これまでの検討結果を中間取りまとめとして公表しました。

### 基本的な考え方

コンクリート型枠用合板の需要は鋼製等非木質系型枠の進出等もあって、市場規模自体の縮小が危惧されています。

また、コンクリート型枠用に使われる原木の輸入は、インドネシア等における違法伐採対策や原木での輸出禁止等の影響により、年々減少しており、南洋材の原木の確保が難しくなっています。

こうした中、型枠に占める型枠用合板の市場規模を維持し、原料面において安定供給体制が整備されつつあるス

ギ等の国産材への転換を行っていくためには、国産材を利用した型枠用合板の開発と普及を通じた需要の拡大を図る必要があります。

しかしながら、ラワン材を原料とした型枠用合板が一般的に広く普及している中であって国産材への原料転換を図るためには、施工業者、型枠大工等のユーザーや発注者のニーズを把握し、それに応える品質・性能を担保し、コストの低減にも可能な限り対応していく必要があります。そのためには、様々な技術的な検討が必要です。

また、技術開発に当たっては、一部の限られた分野にとどまらず、建築・

土木全般での利用拡大を視野に入れて行う必要があります。

さらに、スギ等の国産材型枠用合板を普及させるにあたっては、その品質・性能を明らかにし、ユーザーに対して施工方法を含めた情報提供等が必要です。

### 国産材への転換に向けた課題

製造側、施工側、発注側等のそれぞれの観点から国産材型枠用合板についての課題等について検討してきたところ、主たる論点となったのは、①品質、

②価格、③歩掛や仕様、④製造上の問

題です。

品質について、ユーザー側からは、従来のラワン合板と同等のものが求められており、現在の国産材型枠用合板に対しては厚みの増加や目止めなどの強度と転回数の確保が必要とされました。

価格についてもラワン合板と同程度のもものが要求されますが、単板の選別や表面塗装など様々な要因から全体としては割高になっているのが現状であり、製造側のコスト縮減に向けた努力が課題となりました。

また、歩掛や仕様書等については、新しい資材として工事の実績を踏まえ

ながら実態を反映させていくことが課題とされました。

さらに、製造上の問題として、一般的にスギを材料として利用する際の特性の他、塗装等にかかわる設備投資についても論議されましたが、製造側としては技術的にしっかりしたものを作れるかどうか、そしてそうした製品の利用の推進に向けた国等における対応のあり方についても議論されました。

### 技術的な課題

スギ等の国産材型枠用合板に係る

- 技術的課題は以下のとおり。
- ① たわみ、はらみを防止するための剛性の確保

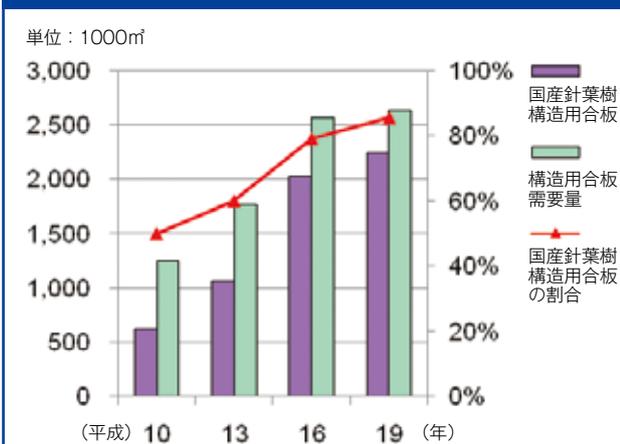
- ② 表面の仕上がり水準の確保
- ③ 転回数の確保
- ④ 型枠設置仕組みの簡略化、普及方法の検討

- ⑤ コストの縮減
- ⑥ 革新的な型枠用合板の開発

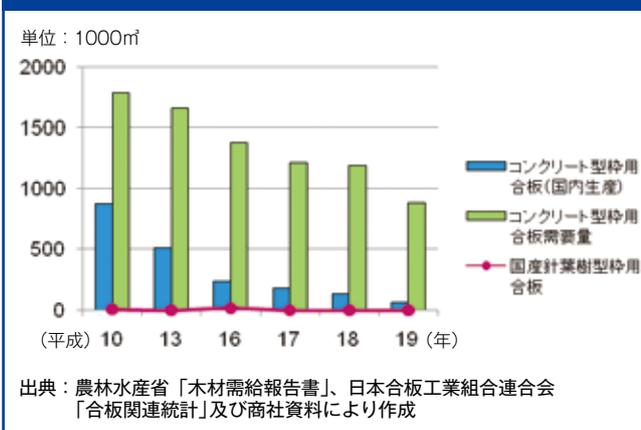
### 環境的視点の理解に向けて検討すべき事項

- ① 資源の調達が難しくなってきた

## 構造用合板の需要量に占める国産針葉樹構造用合板の割合



## コンクリート型枠用合板の国内生産の動向



### 林野庁等における取組

ラワン等の熱帯材を使用した型枠用合板から、国土保全や地球環境問題にも貢献する国内の間伐材等を使用した型枠用合板への転換を図るため、ユーザーと製造業者による型枠用合板のあり方に係る意見交換会の設置についても検討すべき。

②カーボンフットプリント制度に見られるような、環境貢献度による評価の方向性が強まっており、工事資材である型枠用合板としても、将来性を見据えた中で検討していくことが必要。

型枠用合板の利用促進やデータの蓄積・提供といった取組みを検討。

その際、情報の提供などを通じて、地方公共団体における事業においても利用が進むよう努める。

また、試行を含む施工実績の状況などをしながら、歩掛等の見直しや環境面に係る取組みの評価等の考え方等について検討。

③森林土木工事以外への普及への支援

林野庁における取組等と併せ、公共事業を行う関係省庁や型枠用合板を利用する建築業等関連する業界等に対し、施工に係る情報の提供や、例えば環境への貢献度などを示すこと等を通じて、国産材型枠用合板の一層の普及を支援。

④合板加工施設等の支援の検討

技術開発・製品開発の成果を踏まえ、国産材型枠用合板の品質・性能を確保する上で必要となる合板加工施設等について、その整備に対する支援策を検討。

- ① 技術開発等への支援の検討
- 国産材を利用した型枠用合板の技術開発や型枠の利用実態等に係る調査を実施するための支援策の検討。
- ② 森林土木工事への利用の検討
- 技術開発等による品質・性能の向上の状況を踏まえ、林野庁が実施する森林土木工事において、既存の間伐材等国産材利用分野の一層の定着と合わせ、国産材型

※中間とりまとめの詳細及びスギ等の国産材型枠用合板技術検討委員会委員については、林野庁ホームページをご覧ください。  
<http://www.rinya.maff.go.jp/j/press/mokusan/090828.html>